



ネパールで支援したボールを持って笑顔な子ども達

Children in Nepal smiling with the balls from SEEDS Asia in their hands

Newsletter

【ソフトバンク株式会社のアプリ「かざして募金」でこのSEEDSのロゴをかざすと簡単に寄付ができます。】

Table of Contents Vol.48 (Sept, Oct 2015)

- ・ インド：参加型コミュニティ防災推進事業
 - ・ ネパール：地震緊急支援
 - ・ 日本：東日本大震災被災者支援事業
 - ・ ベトナム：学校と地域での防災推進事業
 - ・ ミャンマー：災害危険地域における防災能力向上支援
USAID の能力強化支援プロジェクト
 - ・ フィリピン：セブ州における防災教育の技術移転事業
 - ・ 本部からのお知らせ
-
- ・ India: Project on Participatory CBDRM
 - ・ Nepal: Project on Support for people affected by Nepal earthquake
 - ・ Japan: Project on Support for people affected by Great East Japan Earthquake & Tsunami
 - ・ Vietnam: Project on Capacity Building for DRR at schools and communities
 - ・ Myanmar: Project on Capacity Building for DRR
Project on Myanmar Consortium for Capacity Development on Disaster Management
 - ・ Philippines: Project on DRR Education with school- community linkage in Cebu
 - ・ Announcements from SEEDS Asia



(特定非営利活動法人 SEEDS Asia)

〒658-0072

2-1-21-401 Okamoto,
Higashi Nada ku, Kobe, Japan
神戸市東灘区岡本2-11-21-401

Tel: 078-766-9412

Fax: 078-766-9413

Email: rep@seedsasia.org

Web: www.seedsasia.org

Facebook: <http://www.facebook.com/pages/SEEDS-Asia/206338119398923>



【日本 NGO 連携無償資金協力事業・バラナシ市における参加型コミュニティ防災推進事業】

インド・バラナシ市で防災コミュニティ推進事業開始

2015年10月から SEEDS Asia は京都市、京都大学、バラナシ市、バナラスヒンドゥ大学と協力してバラナシ市のコミュニティ防災力を高める活動を開始しました。

バラナシ市はインド北部のガンジス川沿いに位置します。4千年以上前から人々が居住し、インドの中でも歴史ある都市の一つです。

2014年8月、バラナシ市と京都市は安倍内閣総理大臣とインドのモディ首相立会いのもとパートナーシティ提携意向書に調印し、両市間の協力関係を構築していくことが確認されました。この協定に基づき、京都大学はバナラスヒンドゥ大学、バラナシ市と共同で、バラナシ市の災害リスクを調査しました。この調査によると、バラナシ市では今後、雨季の洪水、熱波などの災害が起こることが予測されていますが、住民の防災への意識が弱く、また、全市的な災害対策が十分になされていないことから、実際に災害が起きた時に被害が大きくなることが考えられます。

このような課題に対応するため、このプロジェクトでは学校や地域住民を巻き込んだ防災活動を行うこと、また市の体制に災害対策を組み込むことで、将来起こりうる災害からバラナシ市民を守ることを目指します。具体的には①学校で気象観測装置などを使用した防災教育を行うこと、②住民が自分たちで地域を守るために活動する防災グループをつくること、③学校・地域の防災活動から集まる情報を集めてそれを市全体に共有する防災推進センターを整えることです。日本の被災経験を生かした技術提供をはじめ、京都・バラナシ市間で協力してこれらの活動に取り組んでいきます。

皆様のご支援・ご協力のほど、どうぞよろしくお願いたします。



バラナシ市内の様子。大気汚染の影響でもやがかったように見えます



【ジャパン・プラットフォーム】

学習支援キットの使用状況のモニタリングの実施

SEEDS Asia は、7月にシンズリ郡のプラノ・ジャンガジョリ村 (Prano Jhangajholi) 内の11校を対象に、また、8月にはジャンガジョリ・ラタマタ (Jhangajholi Ratamata) 村内の全12校を対象に、クセスワ・ドゥンジャ (Kuseswor Dumja) 村内の全12校を対象に、学習支援キットの供与と、ネパールの地震リスクと地震後の子どものストレスに関する知識を伝えるためのワークショップを実施しましたが、最初に実施したプラノ・ジャンガジョリ村 (Prano Jhangajholi) 内の11校には、ワークショップの内容を取りまとめた掲示可能な大型ポスターと、生徒用のノートと鉛筆を配布できていなかったことから、9月10日にその配布を行いました。また、配布の際は、ワークショップの内容について、フォローアップを行いました。さらに、供与した学習支援キットの使用状況に関するモニタリングとワークショップの内容のフォローアップのため、9月23日は3校、24日は2校、25日は祝日となり学校は休学となりましたが、2校の学校長に面談し、状況確認を行いました。9月後半には、インド国境からのネパールへの燃料の輸出規制に伴い、ネパール国内は深刻な燃料不足に陥り、ネパールの人々の生活がさらに苦しくなり、また私達の活動も制限される状況になりましたが、今後もモニタリングを続けていく予定です。

ジャパン・プラットフォームの視察受け入れ

10月6日に、ジャパン・プラットフォーム (JPF) からの視察受け入れを行いました。視察では、現地の学校の歓迎と感謝の言葉を頂きました。特に、「大きなホワイトボードをいただいたから、授業で長い数式を教えることが嬉しい」という、心温まるメッセージもいただきました。



提供したホワイトボードを使って仮設校舎で授業が実施されている

東北：東日本大震災被災者支援事業

【UMCOR・CWS Japan 支援事業】

階上小学校での防災復興マップ授業

2015年9月2日～12日にかけて気仙沼市立階上小学校5年生を対象に防災復興マップ作りが行われ、SEEDS Asiaは昨年に引き続き講師として参加し、市の危機管理課や防災科学技術研究所もアドバイザーとして参加しました。

今回は危険箇所だけでなく復興の過程も残していたため、様々な視点が必要であり、児童は「ハードルが高い。」と思ったそうです。しかし、地域を守るという意識が事前の勉強で養われていたために、終始積極的な姿勢で取り組んでいくことができました。

地域に出てのまちあるきでは、カメラとメモを持ち、地元の人を見つけてはインタビューを繰り返し、昔の災害や事故、震災時の話を聞き、真剣にメモをとっていました。

実際のマップづくりでも沢山の情報の中から何を取り入れるのか、グループ内で議論しながら10時間かけて完成に至りました。

発表は地域の自治会長さん達を前にいき、アドバイスをもらって、さらに良いものへと仕上げ、最終的には、各自治会館に展示されることになりました。



自治会長さん方のアドバイスを聞く児童達

滝の入2区自主防災組織設立10周年記念シンポジウム

2015年10月11日、今年設立された気仙沼市自主防災組織連絡協議会の会長となった臼井弘さんが自治会長を務める滝の入2区主催の「自主防災組織設立10周年記念シンポジウム」が市内の会場で行われました。

臼井さんは気仙沼中央自治連絡協議会の会長でもあり、昨年の就任以来SEEDS Asiaの活動を理解して下さり、今は大切なパートナーです。今回も企画時から相談され、様々な立場の方を集めて防災を考えるきっかけにしましょうと、パネルディスカッション形式に決まりました。

パネリストとして、気仙沼市危機管理課、気仙沼市社会福祉協議会、気仙沼市内の小学校の防災主幹教諭、階上地区振興協議会、京都大学、SEEDS Asiaの6名が参加し、250名の聴衆と共に新しい防災の形について話し合いました。

単体の自治会のイベントとして例がない規模であり、当日の様子は地元ニュースでも紹介されました。



250名の聴衆と共に防災を考えるパネリスト

ベトナム

【日本NGO連携無償資金協力事業：クアンナム省沿岸地域における学校と地域での防災推進事業（第2年次）】

事業終盤前の進捗状況と今後の予定

10月3日、定期検討委員会が開催されました。事業も終盤ということで、DOET（クアンナム省教育訓練局）やDARD（同省農業開発局）から、今までの進捗状況および継続に向けた予定が発表されました。



進捗状況および今後の予定を報告するDOET

DOETからは、モデル校防災担当教員15名が残す219校の教員655名への研修を実施したこと、さらには2016年～2020年の教育計画に、今まで2年間実践してきた防災教育を組み込んだ体制を作ることが報告されました（写真参照）。



進捗状況および今後の予定を報告する DARD

DARD からは、モデル地区の住民は、防災研修が実践的で分かりやすいと話し、熱心に参加している、という報告がありました。特に、本邦研修の参加者が行った津波の<語り部>には、真剣に耳を傾けていたとの報告がありました。今後は本邦研修で学んだ官民一体の組織的な体制づくりに取り組みたいとの報告がありました（写真参照）。

中部ベトナム 8 省での防災教育の共有

10月16・17日の二日間、中部ベトナム8省に向けたワークショップが開催されました。この内容は、この5年間、ダナンとクアンナムで実施してきた防災教育事業を、残す6省と共有するのが主なる目的です。

MOET（国家教育訓練省）および MARD（国家農業開発省）からご臨席いただいたことに加え、8省からは DOET および DARD の職員、さらには関係 NGO の参加と、総計 60 名弱規模のものとなりました。内容は各省の実践や、モデル校・地域での防災プログラムの視察、意見交流など、内容豊富な2日間となりました。

意見交流では、本事業でも重要な位置を占める<望ましい防災テキスト><予算の確保>などの課題が出され、熱心な討議が交わされました。



防災テキストについて話すフエ職員

フエ省の職員からは「いろんな団体が支援をして多くの防災関連教材を作成してくれた。しかし、使い手としてはどれを使用して良いか判断に窮する。国が一律のものを作成して欲しい」との課題が投げかけられました。他の省にも通ずる内容で、討議は加熱。結果「一律の内容を基本に、地域色を取り入れたテキストが望ましい」との意見に落ち着きました（写真参照）。



防災事業予算について話すクアンガイ職員

幾つかの省からは、「防災教育事業を実施したいと思うけど、予算が付かない。だから思うように実施できない」との消極的な意見。これに対し、クアンガイ省の職員が「NGOや支援団体はいつかは撤退する。自分たちの地域に働きかけ、自分たちのお金で進めることが大切。小規模でもこのことが大切」との、本質をついた前向きな回答が出されました。この意見を聞いた時、この意見が参加者全員に浸透することを心から願った次第です（写真参照）。



ミャンマー

【JICA 草の根技術協力事業：災害危険地域における防災能力向上支援プロジェクト】

防災活動センター設立に向けた準備作業とオープニング コンジャンゴン区、ラプタ区、ボガレ区】

本プロジェクトでは、クンジャンゴン区、ラプタ区、ボガレ区の全3区において、各区2箇所（それぞれ中心部と遠隔地）、合計6箇所の「防災活動センター」の開設を計画しており、同センターを中心に学校と地域の連携を図るべく各対象区で活動を継続しています。事業期間は、2016年3月末までです。各区での活動の進捗状況を下記のとおりお伝えします。

1) クンジャンゴン区

クンジャンゴン区の第一号地の開設から一年を迎え、9月12日に一年を振り返る会を実施し、教員8名、コミュニティ8名、生徒6名が参加しました。同区の防災活動センターでは、既に校内及び学校外への生徒に啓発トレーニングを実施してきており、防災リーダーの教員を中心に、グループを校内で組成し、災害毎の防災掲示板を作成するなどの取り組みが見られました。今後も継続して活動を実施していく旨が説明されました。



クンジャンゴン区第一防災活動センターでの年間振り返りの様子

一方、開設準備を進めているクンジャンゴン区の第二号地として計画しているラッコンコン村では、雨期のために車両が泥にはまり、安全なアクセスの確保の問題が発生したため、乾期を待ちながらトレーニングの準備中です（前回の報告までに4つのトレーニングが完了）。11月には再開する予定です。

2) ラプタ区

ラプタ区の中心部に位置する第二高等学校において、10月3日ラプタ区第一防災活動センターの開所式が、同区長他、区防災委員会メンバーや50名の生徒の参加の下、開催されました。



ラプタ区第一防災活動センターの開所式

3) ボガレ区

プロジェクトチームは9月28日にエヤワディ地域ボガレ区に訪問し、区中心部と遠隔地の2箇所の合同で協議し、防災活動センター設立と活動を担っていく防災リーダーの育成を目的とするトレーニング計画を策定しました。今後、トレーニングを開始していきます！



ボガレ区での防災リーダートレーニング計画の協議の様子

【USAID 国家防災マネジメントトレーニングセンターに向けた能力強化 共同プロジェクト】

**大学との連携強化ワークショップ開催と「トレーニング/リサーチ/アクション」ワークショップ開催
【於：ヤンゴン、ヒンタダ区 エヤワディ地域】**

SEEDS Asia は同プロジェクトの協同コンソーシアムメンバー*の一員として、大学と協力しつつ災害マネジメント調査や啓発トレーニングを実施していくこととなっており、10月19日には大学との連携ワークショップを開催。ヤンゴン工科大学、ダゴン大学、パテイン大学、ミャンマー地質学会、ミャンマー地震委員会、ミャンマー赤十字、UNDP等からの参加がありました。



大学との連携ワークショップの様子

翌日の10月20日から21日には、開所式を控えた社会福祉救済復興省復興救済局の国家防災マネジメントトレーニングセンターにおいて、「トレーニング・リサーチ・アクション」ワークショップと題する、調査とトレーニング計画及び防災計画の関係性を実践的に学ぶワークショップを開催し、120名のエヤワディ地域の行政官が出席しました。

(* 協同コンソーシアムメンバー：UNHABITAT/UNDP/ Myanmar Red Cross & American Red Cross /ACTED 他、技術協力団体 (UNICEF, HelpAge, Handicap International, ASHOKA)。



大学及び学会との連携ワークショップの様子



フィリピン (セブ)

【JICA 草の根技術協力事業：セブ州における地域との連携による防災教育の技術移転事業】

教員研修の実施

教育省第7地方事務所職員で構成された防災教育コアチームは、3月に結成されてから、本邦研修を含む様々な研修やワークショップを通じて防災教育に関する能力を高めてきました。次のステップは、培われてきた知識や技術、態度を学校教員に伝えることです。

そのため、9月から10月にかけて、教員研修を実施しました。最初の教員研修は事前オリエンテーションでは、教員研修後にどのような展開が期待されているかの説明や、学校と地域の連携を促進するための各地方自治体防災管理局によるプレゼンテーションが実施されました。質疑応答では参加教員から防災管理局職員に対し「学校が防災管理に関する研修を受けたい時は、防災管理局に依頼できるか」「防災管理局の予算で学校防災教育の支援をしてもらえるか」などの質問が展開されました。事前オリエンテーションのスケジュールと参加者は下表の通りです。

本部からのお知らせ

新スタッフ紹介

日	市町名	学校名・参加者
9月24日	ダナオ市	ギンサイ小学校 12名
		ベアトリス・D・ドゥラノ・メモリアル国立高校 12名
9月25日	ダアンバンタヤン町	ダアンバンタヤン中央小学校 12名
		ダアンバンタヤン中央小学校 12名
	ポゴ市	ポゴ第1中央学校 12名
		ポゴ市立科学芸術アカデミー 12名

次の教員研修は、本研修です。これは、全てのモデル校から72名を招集し、10月26日から30日の5日間、教育省第7地方事務所の研修施設エコテックセンターにて実施しました。

この研修のためにコアチームは会議を重ね、担当セッションの役割分担や、教育省に提出する必要書類の準備を進めました。この書類はプログラム内容からセッションの流れ、必要な教材までの全てを文書として残すことで、今後同様の教員研修が教育省内で実施できるように仕組み化したものです。



本邦研修時に気仙沼市でコアチームが見学した防災授業（サバイバル料理）を実演する参加教員

この研修では、コアチームや専門機関からのゲストスピーカーが対話形式の講義と体験型学習を提供し、参加教員は終始熱心にメモを取ったり、発言をしたりしていました。今後は、各学校で研修の最終日に作成した指導計画を授業で実践したり、参加教員による非参加教員への研修を実施したりすることで、効果的な防災教育モデルの確立と波及を目指します。



教員研修事前オリエンテーションで事前評価用テストとアンケートを受ける教員

インド事務所（宮崎麻衣子）

皆様、はじめまして。10月半ばから SEEDS Asia に仲間入りしました宮崎麻衣子と申します。11月からインドのバラナシに赴任します。

今年の7月まで青年海外協力隊員としてネパールで活動していました。今度はネパールのお隣の国インドで国際協力のプロとして活動できるよう頑張りたいと思います。インドへ行ったことはあるのですが、バラナシは初めてなので、どんなところか楽しみです。

初めてのことばかりで不安もありますが、ガンジス川を見ながらバラナシの人達とともに防災に取り組んでいきたいと思っています。よろしく願い致します。



ミャンマー事務所（柴田茂寛）

皆さん、こんにちは。柴田茂寛と申します。先月の11日にミャンマーオフィスのプロジェクトオフィサーとして SEEDS Asia に入社しました。私の役割は現在行われている Myanmar Consortium for Capacity Development on Disaster Management というプロジェクトに従事することです。SEEDS Asia を通じて、ミャンマーの皆さんに貢献したいと思っています。





India

Project Funded by Ministry of Foreign Affairs of Japan (MOFA): Project for Participatory Community Based Disaster Risk Reduction Approaches in Varanasi

A new Project for Disaster Risk Reduction community in Varanasi has been started

SEEDS Asia has launched a new project in Varanasi city in cooperation with Kyoto city, Kyoto University, Varanasi city and Banaras Hindu University since October 2015.

Varanasi city is located in the north of India, on the banks of the Ganga River. It is one of the old historic cities of India, which has been constantly inhabited by human beings for more than 4000 years.

In August 2014, the Kyoto- Varanasi Partnership Agreement was signed in the presence of Japan' s Prime Minister Abe and India' s Prime Minister Modi. The agreement promotes cooperative relationship between Kyoto city and Varanasi city. After this agreement was signed, the academic study on disaster risks in Varanasi city was conducted by Kyoto University in cooperation with Banaras Hindu University and Varanasi city government. This study revealed that the awareness of Disaster Risk Reduction (DRR) in Varanasi city was low and the disaster countermeasures were also not systematized enough. The city is increasingly exposed to different types of small-scale hazards, which may not turn into mega disasters, but may significantly impact the lives and livelihoods of the people.

Accordingly, this project aims to conduct DRR activities involving schools and residents in the city, and develop a systematical approach in order to protect the people from hazards when they occur in Varanasi city. For example, ① to implement DRR education in schools using weather observation equipment, ② to organize community groups in which the residents plan DRR activities by themselves to protect their livelihood, ③ to develop DRR community facilitation centers which collect information of activities by schools and community groups. SEEDS Asia conducts this project by utilizing Japanese knowledge and technology that have been developed through disaster experiences in Japan.

We appreciate your kind support and cooperation in this project.



Varanasi city looks foggy because of air pollution



Nepal

Project funded by the Japan Platform

Monitoring of educational kit using condition

SEEDS Asia distributed educational kits and held workshops on disaster risks and children' s stress after the earthquake in Nepal to 11 schools in Prano Jhangajholi VDC in July, and 12 schools in Jhangajholi Ratamata VDC and 12 schools in Kuseswor Dumja VDC in August. However, a big poster which summarized content of the workshop as well as notebooks and pencils for students could not be distributed to 11 schools in Prano Jhangajholi, so SEEDS Asia distributed them on 10th September instead. Besides, a follow-up on the workshop' s content was conducted during the distribution. Moreover, in order to monitor educational kit using condition and do a follow-up on the workshop, SEEDS Asia had meetings with principals to confirm the condition in three schools on 23rd, two schools on 24th and two more schools on 25th September though schools closed on 25th as it was a public holiday. Since the latter half of September, due to the restraint on fuel export from India to Nepal, Nepal has faced serious shortage of fuel and the citizens' daily life has become harder. Our activities have also been limited, but we intend to continue monitoring in the future.

Monitoring visit of the Japan Platform

On 6th October, the Japan Platform (JPF) carried out an monitoring visit to the field. The monitoring was welcomed and appreciated by supporting schools. Especially, one of the schools expressed that they are happy to use white boards that were distributed in teaching long numerical formulas. It was such a heart-warming message for us.



A lesson using a distributed white board in temporary learning center



The children listening to advice from the chairs of neighborhood associations

The Great East Japan Earthquake

Project funded by UMCOR • CWS Japan

DRR-and-recovery map making class at Hashikami Elementary School

From 2nd to 12th September 2015, a DRR-and-recovery map making class was conducted for fifth graders of Hashikami Elementary School in Kesennuma city. In this class, the city's Crisis Management Division and National Research Institute for Earth Science and Disaster Prevention attended as advisors and SEEDS Asia as a lecturer.

Since the progress of disaster recovery in the city still has not been completed, the map making this time was not only about risk points, but it also required various other viewpoints. Therefore the students seemed to find it a difficult challenge. However, as previous study had nurtured their awareness of protecting hometown, they showed positive attitude during the class.

Holding cameras and notepaper, the students interviewed the local people they met during their walking around Hashikami District. They noted down seriously the stories they heard from the local people about disasters, accidents and earthquakes in the past.

After that, the students discussed with other group members what to put into the map out of a lot of information they had gathered. The map was completed after ten periods of discussion.

The students gave their presentation in front of the chairs of neighborhood associations. Based on the chair's advice, a better version of the map was finalized and then exhibited in offices of neighborhood associations.

Project funded by UMCOR • CWS Japan

10th Anniversary Symposium of Voluntary Organization for DRR in Ward 2 of Takinoiri

On 11th October 2015, "10th Anniversary Symposium of Voluntary Organization for DRR" was held at an assembly hall in the city by the neighborhood association of Ward 2 of Takinoiri. The Chairman of this neighborhood association is Mr. Usui, who became the president of the Network Association of Volunteer Organizations for DRR established this year.

Since his assumption last year, Mr. Usui, who is also the Chairman of the Union of Kesennuma Chuo Neighborhood Associations, has known about SEEDS Asia's activities and become our important partner. This time, from the planning session, we talked about making this symposium a chance to gather many people from various standpoints to discuss DRR, hence panel discussion form was chosen.

Six panelists were from Crisis Management Division of Kesennuma city, Social Welfare Council of Kesennuma city, DRR senior teacher from an elementary school in Kesennuma city, Association for the Promotion of Hashikami Region, Kyoto University and SEEDS Asia. Panelists with about 250 audiences discussed a new form for DRR in the symposium.

It was such an unprecedented event by a single neighborhood association in terms of scale. The symposium was also introduced in a local news.



Panelists discussing DRR with 250 audiences



Grant Assistance for Japanese NGO Projects: Capacity Building for Disaster Risk Reduction at School and Communities in the Coastal Area of Quangnam Province

Progress report and future plan before the final stage

On 3rd October, an Advisory Committee meeting was held. DOET (Dept. of Education & Training) and DARD (Dept. of Agriculture & Rural Development) announced what they had done on disaster risk reduction (DRR) education so far and what they would do for its sustainability in the future.



DOET' s report on the progress and futu re plan

DOET reported on the TOTs (trainings of trainers) that 15 trainers from model schools had implemented for 655 teachers from 219 schools, and on the framework formulated for the education plan of 2016-2020 which includes the DRR education implemented in the past two years. (Please refer to the photo above).



DARD' s report on the progress and future plan

According to DARD, residents at model communities participated in TOTs with zeal and they thought the contents were practical and easy-to-understand. Especially, they listened attentively to a story of tsunami told by a participant of the Japan Study Tour. It was also reported that the residents expressed their expectation for the establishment of a systematic network between government and community in the future. (Please refer to the photo above).

DRR education sharing among 8 provinces in Central Vietnam

On 16th and 17th October, the DRR Workshop for 8 provinces in Central Vietnam was held to share the past 5-year projects on disaster risk education in Da Nang and Quang Nam by SEEDS Asia with other 6 provinces.

The workshop was attended by about 60 participants in total, including staff from MOET (Ministry of Education & Training) and MARD (Ministry of Agriculture & Rural Development), DOET and DARD of 8 provinces, and NGOs. It lasted 2 days with rich contents such as visit to the sites of DRR program in model schools/ model areas in each province, and idea exchange etc.

In idea exchange section, "desirable DRR textbook" and "budget" which were important factors of this project were enthusiastically discussed.



A staff from Hue talking about DRR textbook

A staff of Hue province started the discussion on the subject that many organizations had delivered various DRR teaching materials, but receivers felt it hard to choose; if possible, DRR textbook should be made based on a national standard. The earnest discussion was concluded with the agreement about "using a text book with regional characteristics and core content based on a national standard" . (Please refer to the photo above).



A staff from Hue talking about DRR textbook

Several provinces showed a negative opinion: "We want to carry out DRR project, but we can't afford to do". A staff of Quang Ngai Province responded to this strongly: "Foreign organizations such as NGOs will certainly withdraw from Vietnam one day in the future, so we have to start raising money from our living areas even little by little." We agreed and hoped his idea would be understood by all participants.

Meanwhile, in Let Khoke Khone village, we had some difficulties in reaching the proposed place for the second DRRAC in the township due to the continuous heavy rains. Our car was stuck in the mud and it was hard to confirm a safe access. At the moment, we are working on preparation of the training in the area which is expected to restart around November after the rainy season get over. (By the previous report, four trainings had already been completed).



Myanmar

JICA Grassroots Technical Cooperation Project: Project on Capacity Building for Disaster Risk Reduction (DRR) in Disaster Risk Areas

Preparatory work for establishment of DRRAC and Opening of DRRAC in Laputta BEHS 2 [Kungyangon, Labutta and Bogale Township]

The current project, which is supported by JICA, designates three townships named Kungyangon, Labutta and Bogale as highly prioritized areas. In each area, two DRR Activity Centers (DRRACs) are scheduled to be opened (one for central area and the other for rural area). Thus, during the project, 6 DRRACs in total will be established, aiming at enhancing cooperation among government, schools and community. The project will last until the end of March 2016.

1) Kungyangon Township

It has been a year since the launch of the first DRRAC in Kungyangon Township. On 12th September, an annual meeting to reflect on the first year was held with attendance of eight teachers from BEHS 1 Kungyangon, eight community members, and six students. As the first case, this DRRAC has already conducted DRR awareness training to the children inside and outside of school. Student groups in which teachers as DRR leaders take the leading role had a new activity of making big notice boards which disseminate information about different kinds of hazards. The DRRAC members also shared the activity schedule for the next year as well.

2) Laputta Township

An opening ceremony was held on 3rd October at the Basic Education High School 2 in Laputta which was chosen as the first DRRAC in Laputta Township with the presence of the township's Chairman and DRR Committee members and 50 students.



The Opening of the Disaster Risk Reduction Activity Center in Laputta

3) Bogale Township

On 28th September, the project team visited the township to finalize the training schedule for the leaders who will be in charge of the establishment and activities of the DRRAC. The urban area group from the central area of the township and rural area group from Kun Thee Chaung Village in Kyon Nyon Gyi Island participated in the session. Based on this schedule, the training shall be started soon!



Annual meeting in DRRAC in Kungyangon



DRRAC meeting for planning for training in Bogale

USAID MCCDDM Project:
Myanmar Consortium for Capacity Development
on Disaster Management

Consultation workshop on Partnership with Universities
and Technical institutions in Yangon
Orientation session on Training-Research-Action in
Hinthada [In Yangon and Hinthada]

SEEDS Asia, as a consortium member of MCCDDM (Myanmar Consortium for Capacity Development on Disaster Management) in Myanmar, is planning to support in conducting disaster management investigation and training of DRR awareness. As a part of planned activity, Consultation Workshop on Partnership with Universities and Technical Institutions was held on 19th October in the Myanmar Engineering Society with attendance of Yangon Technological University, Dagon University, Patheingyi University, Myanmar Earthquake Committee, Myanmar Red Cross Society, and UNDP.



Workshop on Partnership with Universities and Technical Institutions on DRR

On the next days (20th-21st October), Orientation Session on Training-Research-Action Workshop was also held at the National Disaster Management Training Center in Myanmar which belongs to the Relief and Resettlement Department, Ministry of Social Welfare Relief and Resettlement. There were 120 attendees including government officials from Nay Pyi Taw and Ayeyawaddy Region.

(*Consortium of MCCDDM: UNHABITAT/UNDP/ Myanmar Red Cross & American Red Cross /ACTED, technical support agencies (UNICEF, HelpAge, Handicap International, ASHOKA).



Training-Research-Action Workshop in Disaster Management Training Center



JICA Grassroots Technical Cooperation
Project: Capacity Building for Disaster Risk
Reduction (DRR) through Cooperation between
Local Communities and Education Sector in
Cebu Province

Conduct of Teachers' Training

The DRR Education Core Team, consisting of Department of Education (DepEd) Region VII Office officials, have undergone various training and workshops and been capacitated since its formation in March 2015. The next step for the Core Team is to impart the knowledge, skills and attitude on DRR education to the teachers of the Model Schools.

The teachers' training was conducted in September and October with two separate workshops. One is the Pre-Training Orientation conducted per model area (City/Municipality). The workshop program included presentation on expectations of the teachers and Model Schools after the training, as well as introduction of each local government's DRR initiatives to promote the cooperation between schools and communities. In the question and answer session, participating teachers asked the local DRR Management (LDRRM) officers questions such as: "Can we request for training on DRR management of the school?", "Can the DRRM Office shoulder the cost of DRR education at schools?". The schedule and participants of the Pre-Training Orientation were as follows.

Date	City/ Municipality	School & Number of Participants
24th September	Danao City	Guinsay Elementary School 12 participants
		Beatriz D. Durano Memorial National High School 12 participants
25th September	Daanbantayan Municipality	Daanbantayan Central Elementary School 12 participants
		Tapilon National High School 12 participants
	Bogo City	Bogo Central School I 12 participants
		City of Bogo Arts and Science Academy 12 participants

Announcements from SEEDS Asia

The other training session was held at Ecotech Center - DepEd Region VII Office' s training facility from 26th to 30th October. 72 teachers from all the Model Schools gathered in this five-day Proper Training-Workshop.

Before this Training-Workshop, the Core Team had consecutive meetings to decide the roles per session and prepare the required documents by DepEd. These documents will serve as records and a manual where the contents of the program, the flow and necessary resources of each session are stated for future references if DepEd is willing to conduct the same kind of training on their own.



Participating teachers practicing "survival cooking" that the Core Team observed in Kesennuma City during Japan Study Visit

In this Training-Workshop, the Core Team members and guest speakers provided interactive lectures and experiential learning, which made participating teachers take note enthusiastically and speak out to share their thoughts with other participants. The next objective is to establish and spread effective model of DRR education. In order to achieve this, in the next few months, the participating teachers are expected to utilize the iPlans (Instructional Plans) that were created on the last day of the Training-Workshops in their respective schools as well as to conduct capacity building training to their colleague teachers who could not attend the training.



Participating teachers taking pre-training assessment test

New staff members

India Office (Maiko Miyazaki)

Hello, my name is Maiko Miyazaki. I started to work at SEEDS Asia as project officer of Varanasi project from the middle of October, and will move to India soon.

I was volunteering in Nepal as a JICA Volunteer till July. This time, I will work in India which is next to Nepal as one of SEEDS Asia' s members. This is my first time to visit Varanasi, I have visited some places in India before though. So, I am looking forward to staying in Varanasi that is famous for the Ganges.

Everything is new for me, which makes me worry a little, but at the same time, I am excited to work for this project. I will do my best to improve Disaster Risk Reduction system in Varanasi with local people.



Myanmar Office (Shigehiro Shibata)

Hello everyone. I am Shigehiro Shibata. I've just started working for SEEDS Asia since 11th November 2015 as a project officer in Myanmar office. My role here is to manage ongoing project called Myanmar Consortium for Capacity Development on Disaster Management. I would like to make a positive contribution to Myanmar people through SEEDS Asia.

